

今回、2023年9月21日から23日までマレーシアのペナン島で開催された第18回アジア太平洋ヘルニア学会（APHS）に参加させて頂きました。私は今回が初めての国際学会参加でしたので、参加登録や演題登録など何から何まで手間取ってしまいましたが、なんとか出席の運びとなりました。



また、四谷メディカルキューブ今村先生にお誘い頂き、微力ながら9月21日に開催された縫合ワークショップの運営にも携わせて頂きました。縫合ワークショップでは、90分×2回のセッションで参加者にマンツーマンでドライボックスのスーチャリングを指導するような形でした。若輩者ながら、マレーシアや中国の先生方に、可能な範囲で指導させて頂いたのと同時に、ワークショップ中に先生方の国での医療環境や手術の状況などお聞きすることができ、私自身も大変学ぶことの多い非常に有意義なワークショップでした。

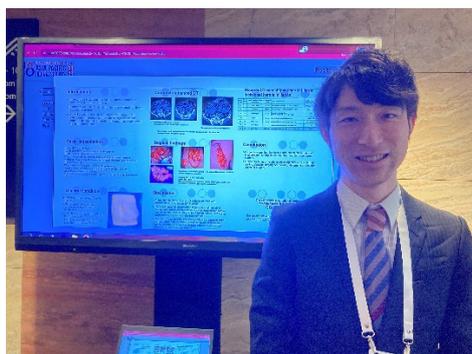


その後のディナーでも、各国の先生と交流することができ、楽しみながらヘルニアについて学ぶことができました。

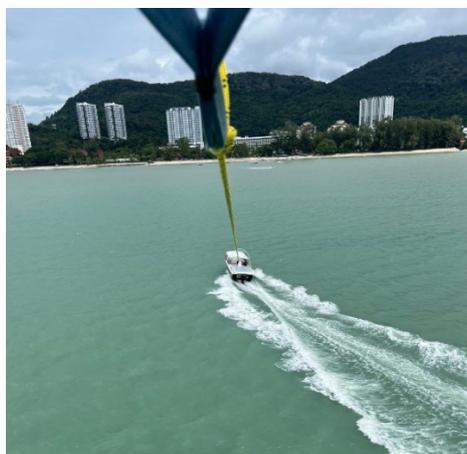


私の演題は巨大腹壁癒痕ヘルニアの嵌頓症例について考察したものでした。残念ながら E-Poster でのアクセプトであったため、実際に口頭での発表の機会はありませんでした。

様々な発表を拝聴し、鼠径ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアについて知見を深めることが出来ました。一方で私がもし発表の場を与えられていたとしたら、このように流暢に発表できるだろうか、すらすらと質問に返答できるだろうか、自分の英語力のなさも痛感した次第でしたが、国際学会ならではの刺激をたくさん受け、今後 oral presentation で是非とも発表したいという意欲が非常に高まりました。



(今回会場がマレーシアのリゾート、ペナン島ということでこっそり海上を舞ったりもしました。)



今回 APHS Scholarship を頂き、非常に貴重な経験をすることができました。日本ヘルニア学会理事長の蜂須賀先生、国際委員会委員長の三澤先生、suturing workshop にお誘いいただきました今村先生、関係各位に深く感謝致します。また今後も JHS の発展に微力ながら努力して参りたいと思っております。